

弘前大学大学院地域社会研究科令和2年度公開セミナーin三沢市  
「あらためて地域づくり人材をどう育てるか」

# 小さな経済から地域共生社会へ

---

弘前大学大学院地域社会研究科

客員研究員 竹ヶ原 公

# はじめに

---

## 大学院に進んだ理由

今日のテーマ「あらためて地域づくり人材をどう育てるか」

(➡私の場合「どう育ててもらったか?」)

「これまで学んできたこと」「活動してきたこと」を整理したい。

# 今日の発表のながれ

---

- 1 「奥入瀬の米プロジェクト」
- 2 ① 「SC内での直売所」  
② 「無人販売所運営」
- 3 「小さな経済」は地域づくりに活かされたか？
- 4 「青森県型地域共生社会」に向けた基盤づくり
- 5 地域づくりにおける私の立ち位置

# 1 「奥入瀬の米プロジェクト」 (1)

---

- 期間：2010年～2013年
- 場所：十和田市沢田地区・熊ノ沢地区
- 参加：NPO・自然栽培研究所・高校・町内会・老人クラブ・幼稚園
- 狙い①地域での農業資源を守る
  - ②多様な関わり
  - ③自然栽培による安全な米作り
  - ④地域で支える農業 (CSA)

# 1 「奥入瀬の米プロジェクト」 (2)

---

なんで西高で田植えしなきゃな  
んないの？



2010年5月25日(火)

奥入瀬の米プロジェクト実行委員会



# 1 「奥入瀬の米プロジェクト」 (3)



# 1 「奥入瀬の米プロジェクト」 (4)

- 緊急雇用事業としてスタートし、その後は自主財源で継続
  - 座学➡田植え➡草取り➡稲刈り➡脱穀➡販売まで。
  - 作付場所の移転
  - 自然栽培生産者の新たな就職により田圃の管理不足
  - 収量不足（無農薬無化学肥料により当初の予定5俵/1反部が3俵に）
- \*結果4年で断念

## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」(1)

### ①SC内での直売所運営

- 2007年～2012年
- 十和田市大型SC内
- 参加者は16人からスタート
- 地域でのネットワークがない大手流通と近隣での販売場所を探す生産者をつなぐ





## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (2)

### ①直売所運営状況

- ・ 10坪程度



## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」(3)

---

- 取扱金額 7000万円/年間
- 参加団体及び個人約100箇所
- 「地域芸能まつり」や「食育教室」などの事業も実施
- 2011年東日本大震災を契機に地域の力のある団体に継承
- 売上至上主義の店舗の中では参加が広域になりすぎるなど集落中心の地域づくりには大きな障壁

## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (3) 七戸町白石地区無人販売所運営

---

### ②七戸町白石地区「無人販売所運営」

- 平成26年～令和元年

- 七戸町白石地区

- 弘前大学大学院地域社会研究科「集落点検」から地域に入る。

## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」(4) 七戸町白石地区無人販売所運営

---

- 2014年 集落経営再生・活性化事業での白石地区集落点検作業
- 2015年 集落経営再生・活性化事業での「山の恵み部会」事業
  - ・2015年2月から2016年3月まで**39回**にわたる住民とのWS
  - ・「地域にある山菜や野菜」による「小さな経済」(\*)づくり

## \* 「小さな経済」とは

農山村において「あとどれくらいの月額収入が必要か？」の問いに、高齢者は月3万～5万円が中心であり、働き盛りの男性でも月10万以上という回答が半数以下でありこれを「小さな経済」と呼びたい。小田切徳美（2014）

# 実施までのスケジュール案

4月	5月	6月	7月
2月24日～毎週火曜打合せ			
<p>【やること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・陳列できる野菜作り</li><li>・場所の選定</li><li>・年間作付計画</li></ul>	<p>【やること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公図取得</li><li>・場所と所有者確認</li><li>・借用許可</li><li>・警察署確認</li><li>・県土整備部確認</li></ul>	<p>【やること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図面引き</li><li>・見積もり算出</li><li>・作業工程表作成</li><li>・資材購入準備</li><li>・規約づくり</li></ul>	<p>【やること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・作業日確定</li><li>・作業応援依頼</li><li>・管理体制構築</li><li>・草刈り&amp;地ならし</li><li>・建物建設</li></ul>

※白石地区住民への参加呼びかけ(7/1毎戸配布)

完成画像の住民への報告と参加募集(8/1毎戸配布)

## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (5) 七戸町白石地区無人販売所運営



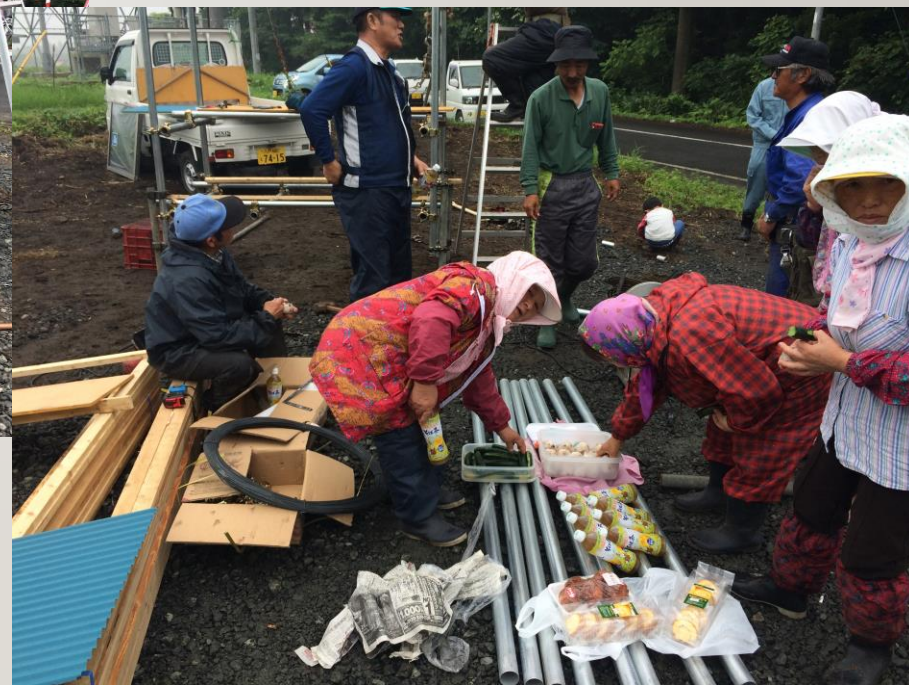
## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (6) 七戸町白石地区無人販売所運営

---

- 2015年7月26日 (日) オープン (地域住民の力の結集)
- ・ 設計図は白石分館長 (敏美さん)
- ・ 地ならしは若旦那衆がトラクター3台 (幸一さん、定美さん他)
- ・ 直売所組立は地元の大工さん (操さん)
- ・ 掃除はムラの女性たち → この女性たちが販売していくことになる



## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (7) 七戸町白石地区無人販売所運営





(第3種郵便物認可) 7/26

つたえる地域 つながる地域

無人販売所の設置を祝う関係者

国的重要無形民俗文化

同地区は、人口減少 誇りを持って暮らし続  
や高齢化が進む中でも けることを目指し、町

## 七戸 絆育む野菜販売所に

七戸町の白石分館地区に、地域住民による野菜の無人販売所がオープンした。各自が収穫した新鮮な野菜を持ち寄り、一袋100円で販売。地域の資源を活用し、地域の活性化につなげるのが狙いだ。(太田一世)

### 無人1袋100円、オープン

の協力を得て、青森 県、弘前大と連携して 2014年度から県集 落経営再生・活性化事 業に取り組んでいる。 販売所の開店はこの 一環で、利益追求より も、野菜や山菜など自 然の恵みを有効に活用 しながら地域のコミュ ニティを形成し、魅 力を発信するのが大き な目的となっている。 栽培方法などについて も、県のアドバイスを受 けた。

販売所は19日に住民ら が協力して設置。子ども たちの絵をあしら い、親しみやすい外観

に仕上げた。 26日は現地でオープ ニングセレモニーが開 かれ、関係者が門出を 祝った。上原千敏美分 館長が「住民同士の絆 を深め、子どもたちに 地域の誇りを持ってもら うことを目標に活動を 続けていきたい」と

あいさつ。小又勉町長 が激励の言葉を贈った。

設置場所は七戸町上 志多100の608。 時間は午前8時〜午後 5時。主に夏から秋に かけて運営し、冬期間 は撤去する予定。運営 費は売上金で賄う。

白石分館地区住民意欲

(松) 日 Δクラス 平野八段 (和) V

## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (8) 七戸町白石地区無人販売所運営

### 白石地域のとうもろこし 名前募集!



#### 応募要項

応募締切: 8月10日(水) \* 1人応募1口(子供の数)  
応募方法: 白石分館入口応募箱に用紙を投入(用紙は裏)  
採用発表: 8月15日(月) 夏祭時に発表  
採用: 1等2等3等(各1人)  
応募資格: 白石地区在住の小・中・高校生  
及び白石地区在住の方のお子さんとお孫さん  
(他地域に住んでいる子供でも可)

- ・ 2016年
- ・ とうもろこし
- ・ 白石集落
- ・ 無人販売所の収益から賞品

- ・ 2018年
- ・ 高齢者と大学生
- ・ 町バス活用
- ・ 庭先の野菜の販売
- ・ むつ小川原財団



## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (9) 七戸町白石地区無人販売所運営

- 最初の2年間はどっぷり、あとの2年は管理運営方法の指導
- 5年目からは自分たちだけで活動
- 参加者の拡大ができなかった。
- 「小さな経済」に時間をかけるより「手間取り」の方が手っ取り早い
- 2019年で終了

## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (9) 平内町藤沢地区無人販売所運営

---

②2014年 集落経営再生・活性化事業での藤沢地区集落点検作業

2015年 集落経営再生・活性化事業での「山の恵み部会」事業  
ビジョンは決まった

何を具体的活動としていくか。継続していくしくみが必要とされた。

●2016年 (ここから私に関わる)

白石地区を先行事例に藤沢地区無人販売所設立ws始まる。

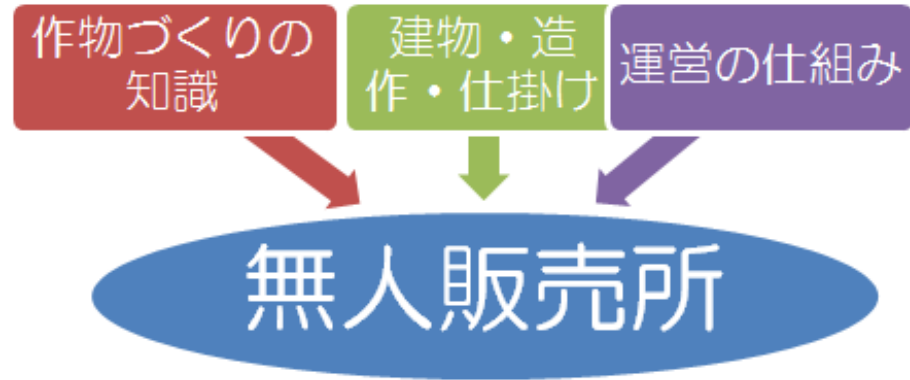
## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (10) 平内町藤沢地区無人販売所運営

### ●2016年7月11日 (日) オープン

- ・ 土地はムラを離れている元住民から借用
- ・ 建物は以前車庫に利用していたものを男性たちで壁板から棚から自作
- ・ 野菜の準備は若妻会 (平均年齢70歳?)

### ③ 運営の仕組み

意思決定方法、売上の配分方法、商品管理方法、建物管理方法等



2月から決めていくスケジュール案

	7月	6月	5月	4月
作物づくりの知識	露地物収穫	← 作付		農業知識・土壌知識・作物表
建物・造作・仕掛け	建物完成 造作完成 オープニング	建設 オープン式	外観・内装等	
運営の仕組み	意思決定 売上配分決定 商品管理決定 建物管理決定	← 話し合い		規約の取決め



## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (11) 平内町藤沢地区無人販売所運営





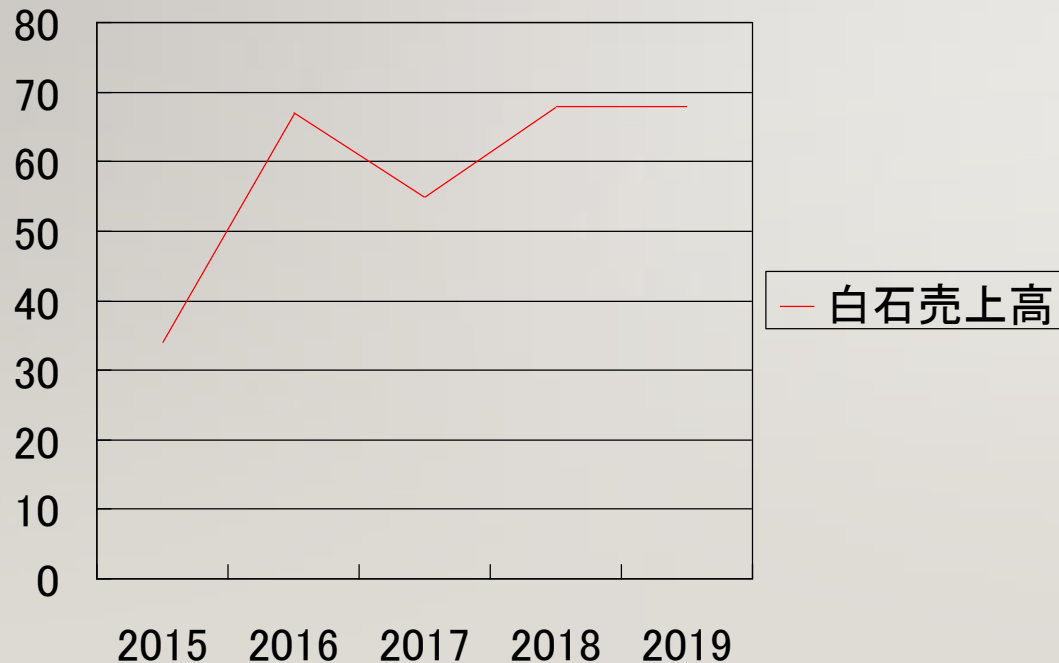
## 2 「SC内での直売所・無人販売所運営」 (12) 平内町藤沢地区無人販売所運営

### ●藤沢地区その後の活動

地域づくりインターンシップでの学生の受入から新たな視点



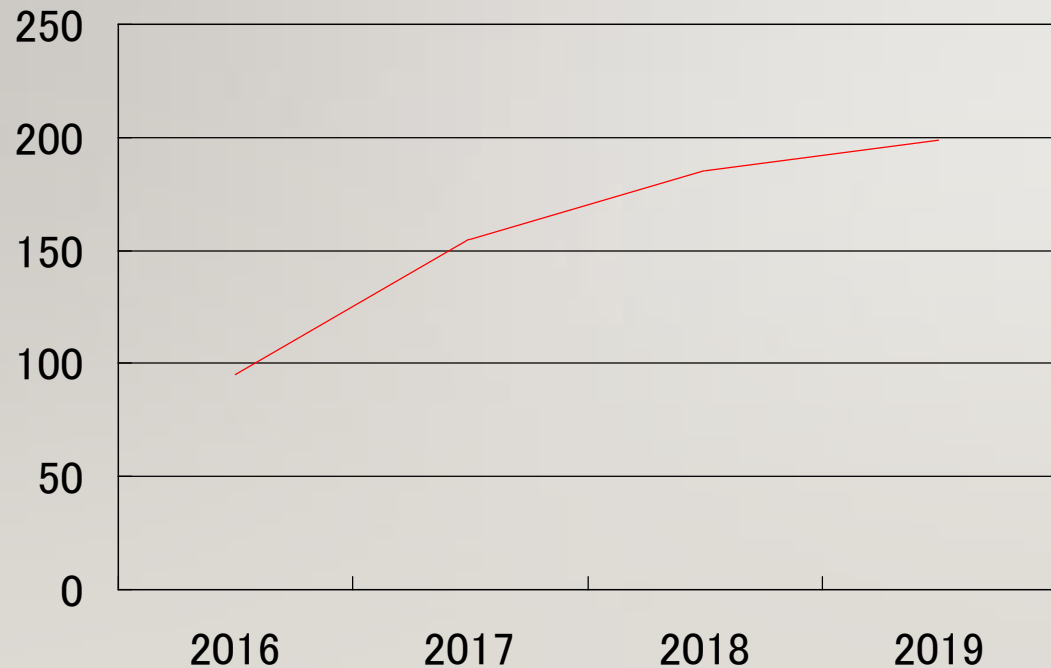
### 3 「小さな経済」は地域づくりに活かされたか①



#### < 白石地区無人販売所 >

- 参加者 = 7人 (2019年には4人)
- 販売期間 = 5月～10月 (実質4か月)
- 1人当たり売上高 = 17万円/年
- 1か月あたり売上高 = 4.2万円/1人

### 3 「小さな経済」は地域づくりに活かされたか②



#### < 藤沢地区無人販売所 >

- 参加者 = 24人
- 販売期間 = 7月～11月（実質4か月）
- 1人当たり売上高 = 8.3万円/年
- 1か月あたり売上高 = 2.1万円/1人

### 3 「小さな経済」は地域づくりに活かされたか？

地域づくり活動で見つかった5つのキーワード

魅力再発見

結の再構築

参加の場

自立の手段

自立の意識

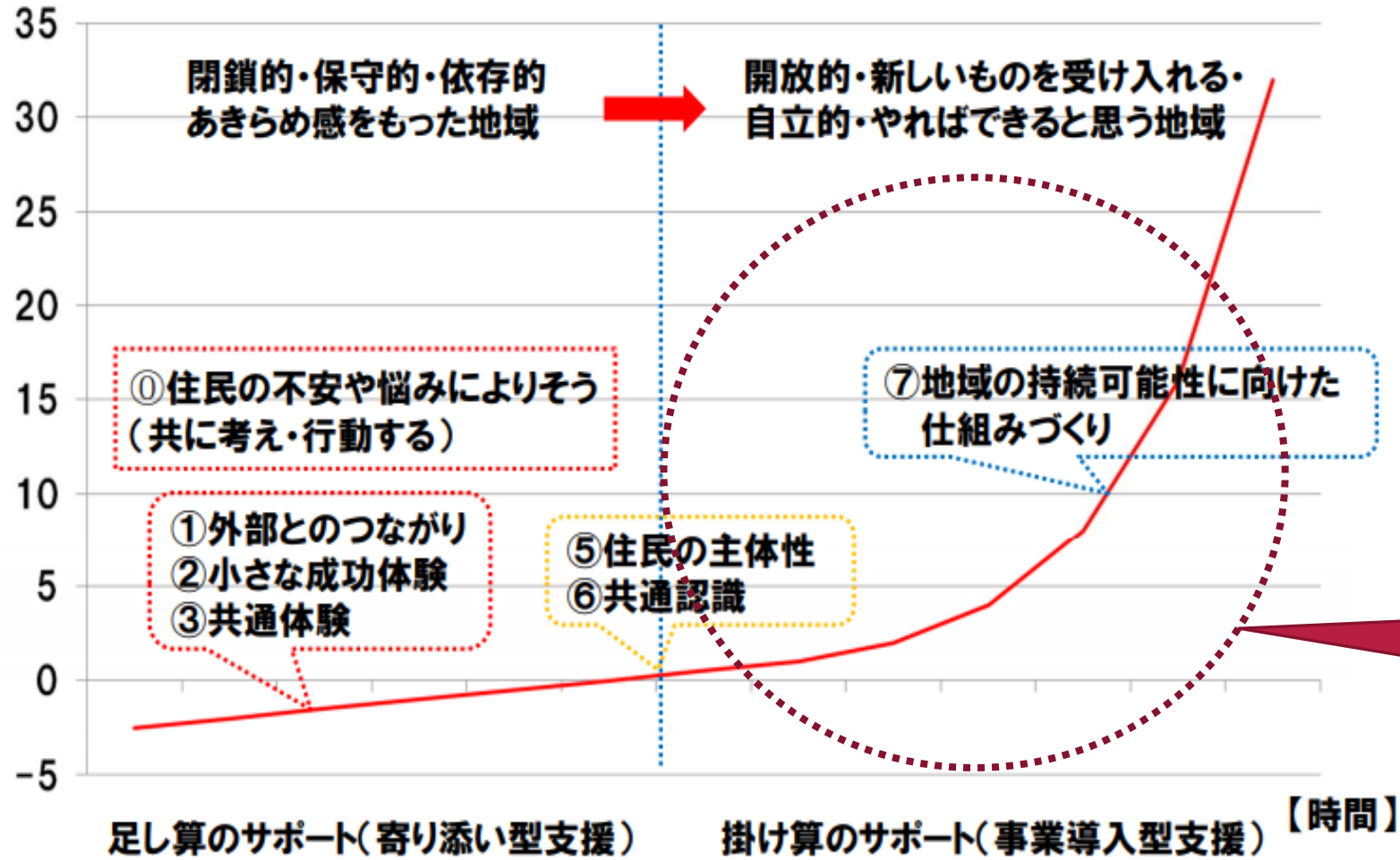
### 3 「小さな経済」は地域づくりに活かされたか？

- 「小さな経済」参加者の収入を増やすことに成功
- 「小さな経済」参加者の労働意欲向上に寄与
- 「小さな経済」参加者による地域住民への波及効果は地域差
- 単なる物販だけで会合が終始するところは縮小傾向
- 地域づくり活動のひとつの手段として捉えるところは継続できるようだ

# 「小さな経済」の位置づけ

【地域力】

【地域力創造モデル曲線】



出典：稲垣文彦

第4回コミュニティ研究会  
「中越地震からのコミュニティ再生の取組」に筆者加筆

「小さな経済」  
取組みの位置

# 「小さな経済」の地域力創造への評価

活動	住民の不安や悩みに寄添う	外部とのつながり	小さな成功体験	共通体験	住民の主体性	共通認識	持続可能なくみづくり	
①奥入瀬の米P	×	○	○	○	×	×	×	学校教育からのスタートに「小さな経済」はなじまない
②SC内直売所	×	○	○	○	×	×	△	地域という意識づけが困難になっている
③白石無人販売所	○	○	○	△	×	×	△	小さな成功体験が立ち止まりの様相
④藤沢無人販売所	○	○	○	○	△	○	○	集落としての共通認識は高く「小さな経済」が大きな手段

ここが重要だった

### 3 「小さな経済」は地域づくりに活かされたか結論

---

1. 「住民の主体性」「共通認識」が「やればできる地域づくり」には最も必要
2. 「小さな経済」は「住民の主体性」「共通認識」の基礎があり手段として必要
3. 最初に「持続可能な仕組みづくり」を目指しても積み上げは困難



## 4 「青森県型地域共生社会」に向けた基盤づくり①

■住民意識の醸成の1つの手段「地域運営組織」とは（基本的定義）

＝住民による〈参加・協議＋（問題解決的）実行〉組織

地域課題の解決に向けた事業等について、多機能型の取組を持続的に行うための組織」（「まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015改訂版）」）

●「青森県型地域共生社会づくり」のための住民意識の醸成を図る

＊「住民の主体性」「共通認識」づくりに取組む

●三戸郡南部町三戸駅前地区に2017年8月～2020年2月まで

## 4 「青森県型地域共生社会」に向けた基盤づくり②

---

- ①現状の把握＝住民活動の現場回り
- ②情報の共有＝コミュニティ新聞の毎月発行
- ③核になるメンバーのWS＝毎月1回実施
- ④今活動している組織の「地域運営組織」に向けての改編
- ⑤「小さな経済」の布石＝「なべ食堂」の取組み

## 4 「青森県型地域共生社会」に向けた基盤づくり③



県職員・町職員と住民の会  
合に兎に角顔を出す。



地域の小さなイベントに県  
職員・町職員と顔を出す。



1年半歩きながら住民の考  
えを聞くWSを開く



## 4 「青森県型地域共生社会」に向けた基盤づくり④

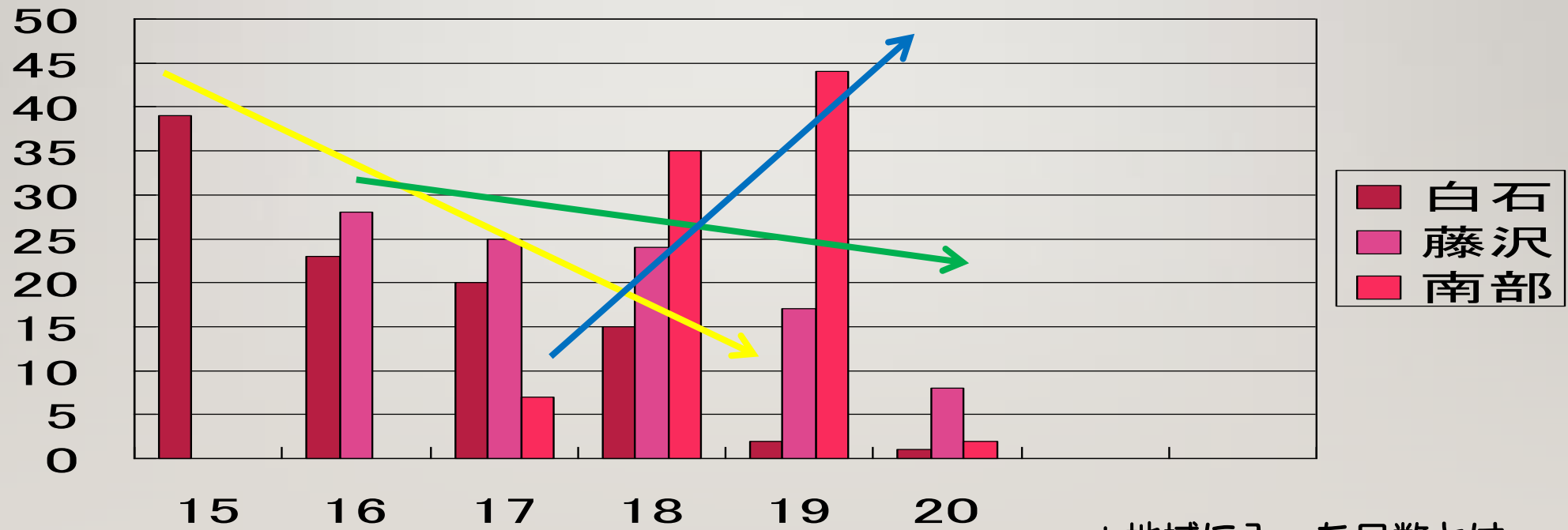
---

南部町三戸駅前地区の

「青森県型地域共生社会づくり」は道半ば



# 5 地域づくりにおける私の立ち位置 ① (1年間の地域に入った日数\*)



\*地域に入った日数とは、  
WS、ヒアリング、参加等

## 5 地域づくりにおける私の立ち位置 ②

---

●地域住民との信頼関係づくり（回数）が重要  
（特に初期）

- 「小さな経済」づくりは手段
- 大切なことはそのプロセス
- プロセスに必要なものが「場づくり」
- 私はその場づくり「空気感」を大切にし回数を重ねた。

## 5 地域づくりにおける私の立ち位置 ③

【当初の理由】

これまで学んできたことを整理したい

【学ぶことで見えてきた理由】

社会の中での立ち位置を確認したい

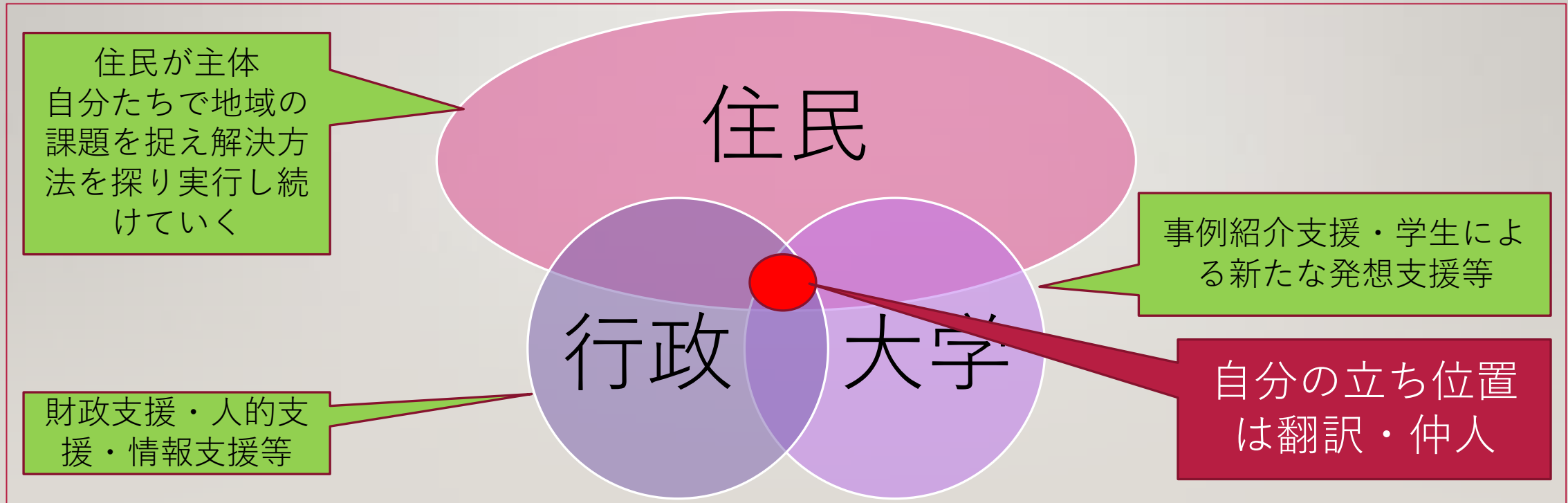


## 5 地域づくりにおける私の立ち位置 ⑤

---

- 住民だけでは事業推進・運営に負担が大きい。
- 住民と自治体では住民の依存意識が強い傾向になる。
- 研究者と住民だけでは研究者目線・教員目線になる。
- 自分がそこに住む人の生活目線を基礎とした関係になる。
- そのためには三者の中間に位置する必要がある。

# 5 地域づくりにおける私の立ち位置 ⑥



「地域づくり 住民の考えの変化3段階」  
(周南市棚田清流の会佐伯さんの言葉から)

③できないはずがない！

自信過剰？

②できるかもしれない

成功体験から

①できるはずがない！

スタート

私の役割  
地域の人と一緒に  
なりステップアッ  
プのお手伝い

今一度

学ぶということにチャレンジしてみませんか？

---

私の場合①論理的思考②自身の立ち位置  
の確認でした。

自分の看板を磨きましょう！

きっと楽しい人生が待っています！